

**連載****社会教育施設について考える(WG報告)****～第12回：本WGのこれからと新WGへの引継ぎ～**

福澄孝博 (WG代表/札幌市青少年科学館)、生涯学習施設支援WG

**1. はじめに**

天文教育普及研究会生涯学習施設支援ワーキンググループ(以下、本WG)は2014年に設立[1]され、2度の活動期間延長を経て、まとめの年度(本会の事業年度は7/1～6/30)に入りました。「本WGのまとめとこれから」といった内容の発表を支部会や天文教育研究会でも行ってきたところですが、主に第32回天文教育研究会(@慶応日吉キャンパス:横浜)の集録原稿[2]を引用・再掲する形で、ここにも報告します。また、第10回で齋藤が報告した日本公開天文台協会(以下、JAPOS)との連携[3]につき、先方に新WGが設立され協同の具体的な動きが見えてきましたので、併せてその現状を紹介します。

**2. これまでにやったことと、取り組みたかったこと\_1: 台長会議前夜**

JAPOSでは「公開プログラムWG」「次世代型公開天文台検討WG」で現場担当者の運営ノウハウの充実、「台長会議」で経営・マネジメントの立場からの検討とその発展を目指しておられます。その内、本年4月に行われた第二回台長会議に本WGからも齋藤が参加[3]したわけですが、のちにも紹介するように、その前後で本WGの今後のまとめに向けての活動方針が大きく転回しました。そこで台長会議前夜とその後とに分けて、まずは本WGのこれまでの活動を概観したいと思います。

それまでに完了していた活動(進行中のもも含む)として、以下があげられます。①JPA白書を分析し、先ずはこの10年に廃止・縮小になった施設のリストを作成。②施設運営の在り方の変遷(指定管理者制度導入前夜

～導入後)を総括し、文書に:但し未公開(公開準備中)。③個別事例の取り纏め:廃止・休止になった施設のみならず、巧くいつているところの情報も。これらの内、①・③が当連載記事の元となっています。

それらの中でも特に、調査研究にあたって我われが苦勞したこと・感じたことは連載第2回[4]に紹介しました。今後の同様な活動をされる方は、そちらも再確認して戴きたいと思えます。実際にデータ分析をしてみた経験から、調査の難しさ全体として「やっている間にも全体的に次ぎデータが古くなる、有名どころではない施設の情報が得にくい」ことに特に苦勞しました。後者につきましては会員の、いや、一般の皆さまからの情報も頼り、ですので、これからも是非積極的にお寄せいただければ、とお願いいたします。

それらの作業の中で我われが出した結論((1度目の)方向転換)は、分析にこだわり過ぎず『これこれの条件で調査したところこういう結果が出た』と示すので十分ではないかと割り切る、でした。客観的統計データの1つとしての現状を報告(極端な話、例えば、存続中・母体変更・廃止・・・の割合を示すだけでも可だろう)ということです。それに対し、より注力すべき調査と判断したのが「個別事案の資料収集」でした。いくつかの事案だけに絞っても良いからこちらは逆に、深く調査・収集を行うべきと考えました。資料が離散・散逸し当事者が不明・あるいは連絡が取れにくくなってしまふのを恐れたのです。こちらの作業の中で明らかになった共通の特徴は、『議事録だと「あっさり」している。委員会の動画なども含めおさえないと全容が

つかめない。』ということ。第29回天文教育研究会の集録[5]に肉付けするイメージで情報収集していくのに加え、一方で、逆に当事者の方がたが我われに施設の変遷データを提供することへのメリット感とは？とも意識し、身を引き締めてより良い調査にしなければ、と心を新たにしました。

そんな中で、WGの活動期限も迫る折、今後最終年度で手掛けたいこととして、①廃止の後にその市町村が結局何に使ったか(場所・予算)の追跡調査、②これまで集めたデータの公開、調査結果の公開、③他団体との連携、④解散後、の措置(情報収集窓口の設置をどう考えるか)、をWG内の話し合いを経て掲げました。これらのうち、③④の実現の一環として、上記「台長会議」への出席を計画したのです。

### 3. 取り組みたかったこと\_2：台長会議を受けて

当初は、JAPOSの台長会議に出席して上記のような活動を紹介し、周囲の天文台関連の情報(や新たなWGメンバー)を得られないか呼び掛けるつもりでした。我われ自身の情報収集としても、公開天文台の現状を知りたい、という思いからです。こうして、先方との事前打ち合わせを含めた交流の中でも協同で調査研究を行う必要性・有用性を議論してから、万全の態勢で会議に臨みました。しかし、実際には、公開天文台運営の置かれる状況はまさに危機的状況で、想像以上に「危惧されるもの」でした。本WGでこれまで主に調査されている科学館・プラネタリウムと比較しても、それが際立っていることが明らか(福澄自身、そんな弱小施設を運営し苦労した経験があるので、決して蔑んでいわけではありません)であり、早急な対策が必要との共通認識を得るに至ったのです。

そこで、2.節で取り上げた「今後最終年度

で手掛けたいこと」を一部方向修正して、最終的には以下の方針としました。①現在のWGは今年度を活動の最終年度とし、出来る範囲での情報発信に努める。②調査・研究を進めるためには、他団体との協力が肝要であることから、新たにより幅広く協力し合って活動するWGを立ち上げる。③情報窓口の検討・設置や本連載の中でも残された宿題の遂行などは新WGに引継ぐ。こうして、本WGは正式に2018年度末[2019年6月]で活動を終了し『発展的解消』することになりました。

### 4. JAPOSでの新WG立ち上げについて

これら一連の流れの中で、一方の当事者たるJAPOSには、このことが契機となり、今年6月の総会で新たに「公開天文台運営の健全化推進WG(呼びかけ人:平塚市博物館 塚田健さん)」が設置・承認されるに至りました。福澄もそのメンバーであるWGの設立申込書からその趣旨を引用すると、「本会でも様々な視点で施設の運営を阻害する要因・うまく運営を展開する方策等の調査研究が行われている。しかし、『設置者・管理者』の立場からのものは希薄であったと否めない。そこで、新WGを設立し、他団体とも共に活動しつつこれに当たる。(福澄による概要再まとめ)」となっています。

まだメンバー内での打ち合わせの段階ですが、その活動方針(案)を参考のため概説します。いわゆる大きな施設と弱小施設(こちらが大多数)とに二極化されてしまった公開天文台の現状を鑑みても可及的速やかに対策を講じる必要があり、①公開天文台の、特に運営の現状につきアンケート調査、②定量的データだけでは捉えきれない個々の事例をレポート、を柱に、全国的で継続的な調査を呼び掛けようとしています。本WGよりも、より現場に踏み込んだ調査研究・具体的な支援を含む活動のイメージです。

今後、我われも協力して、これら活動を具体的に展開していくことでしょう。

## 5. 本WGの解散迄とその後-まとめに替えて-

最後に、本年度の具体的活動方針を以下に示します。

先ず、公開・保存の手順として、①インターネットでの調査報告・事例取りまとめの公開：これについては天教のサイト内（WGのページ）に『恒久的に』置けます。②別途、紙ベースでの発表：i) 天文教育誌、ii) その他にも、中身全体ではなくカタログ的で良いから、あちらこちらで出版（例：研究発表すれば集録に載るし検索にも掛かる・その他天文月報やJAAAの機関誌などにも？）の二本立てで活動します。

あわせて、『我われが情報収集活動を続けていけば、何かあった時に「あそこに報告しておこう」と思ってもらえるのでは?』という思いもあり、情報発信を第一に、注力しようとしています。情報発信についてより具体的な手段を紹介すると、①休館・廃止などの『リストだけで良いから』定期的、恒久的にチェック&管理。②そういった『リスト』とは別に、施設の存廃情報を書き込んでもらうブログを用意：なりそうだ、はともかくとして「なりました」を広く一般の方から書き込んでもらおう、というものです。いずれにしても、天文教育普及研究会がハブとなって取りまとめる（活動する）ことが肝要でしょう！

一方で、4.節で紹介したJAPOSでの新WGとのみならず、さらには他の団体との協同調査研究も、今後の活動の大きな柱となっていきます。その道筋を模索しつつ、3.節で述べた新WG（「社会教育施設について皆で考えるWG」とでもいった名前になるでしょうか）へと引き継いでいきたいと考えます。

ここに、今年度会員全体集会で報告した2018年度活動方針を再掲し、本稿の結びとし

たいと思います。今後とも、本WG活動へのご理解・ご協力、および、“来るべき新WGへ、も含め、”ご参加を心待ちし、お願い申し上げます。

- 生涯学習施設運営について調査研究および天文教育誌での報告連載記事の発表
- 施設運営状況についての情報収集窓口整備（とっかかりをつける）
- 日本公開天文台協会等他団体との協同の道模筋索。
- これまでの活動をまとめ上げ、報告書を作成し、活動終了：本連載とは別に、簡便でもよいので小冊子（宿題の回答も含めた）を作りたい。

## 文 献

- [1] <https://tenkyo.net/category/wg/>
- [2] 福澄孝博ら（2018）「生涯学習施設支援WGの活動まとめとこれから」、第32回天文教育研究会集録，印刷中。
- [3] 齋藤正晴ら（2018）「社会教育施設について考える（WG報告）～第10回：公開天文台協会会長会議報告～」，天文教育，第30巻第4号（2018年7月号），42。
- [4] 福澄孝博ら（2016）「社会教育施設について考える（WG報告）～第2回：西日本データ・JAAA年会参加報告編～」，天文教育，第28巻第6号（2016年11月号），67。
- [5] 福澄孝博（2015）「社会教育施設の現状分析とこれから～我々には何ができるか～」，第29回天文教育研究会集録，43.：インターネット版 [https://tenkyo.net/kaiho/syuroku/29th\\_pdf/29th-03.pdf](https://tenkyo.net/kaiho/syuroku/29th_pdf/29th-03.pdf)



福澄 孝博